

福井県流域環境ネットワーク協議会 第1回河道技術部会 議事概要

日時：平成27年12月8日（火）15：00～17：00

場所：AOSSA7階 706・707号室

1 開会

あいさつ（福井国道河川事務所）

日野川における治水安全度が低い延長約3.0kmの区間において河道掘削を行い、治水安全度を高める計画をしている。その区間で、コウノトリを一つのシンボルとして多様な生態系を育む河川整備を進めていきたく、本日このような場を設けさせて頂いた。治水と環境の両方を満たす河川づくりを進めていけるよう、それぞれの専門分野から忌憚のないご意見を頂きたい。

2 委員あいさつ

各委員からあいさつ

3 協議会の構成と目的について

事務局から説明

4 部会規約（案）について

事務局案に異議なし

5 部会公開方針（案）について

事務局案に異議なし

6 部会長選出

福原委員が部会長に選出された。

7 部会長あいさつ

あいさつ（福原委員長）

円山川での事例や経験を参考に、方法論やアプローチ手法などを当部会で議論し、日野川でさらに発展させ、生態系にやさしい河道作りを全国へ向けて示せると良い。

8 第1回協議会 議事概要

事務局より説明

9 協議

（1）河道技術部会 資料説明

資料に基づき、事務局より説明

（2）意見交換

<吉岡委員>

河道掘削を実施するまでに生物関連のデータ等を取り、確認、整理する期間があるのか。改修のスケジュールを教えてほしい。

<事務局>

来年度に予算がつけば、平成28年10月の非出水期から工事を実施する予定であり、それまでの間に生物関連のデータ等の確認、整理を行いたい。また、直轄区間は河川水辺の国勢調査を毎年行っており、その中で追加すべき調査項目があればアドバイスを頂きたい。

<萱場委員>

空中写真データ等から九頭竜川と日野川の環境、地形の経年変化状況を把握し、これまでに失ったものに対して河道掘削によりどの程度まで復元できるかを整理した方が良い。

また、水辺の国勢調査結果で、どの種の群落が増減しているか整理すると良い。

1年間で整備できる延長を教えてほしい。ある程度事業期間があるなら、試験掘削を行い、植生傾向をフィードバックしながら進めると良い。

<事務局>

掘削した残土の受け入れ状況により工事費が変動するので一概には言えないが、年2～300mの整備ができると考えている。片粕地区では3～5年程度かかると思われるので試験施工を行いながら事業を進めたい。

<吉岡委員>

氾濫原の掃流がどのくらいの頻度でどのくらいの強さか、また冠水の割合の状況を見な

がら平面設計していくことが大事。

<佐川委員>

国交省の資料 P7 の河道掘削する箇所に貴重種がないか気になる。

P10 の腹足類はタニシを想定しているのか。おそらくコウノトリはタニシを食べない。

P24 で魚を定着させようとする時、アプローチと生息が重要であり、深場を作れば魚類は生息するが、みお筋から流入するので、低水路との連結部分も検討することが必要。

P36 湿地面積が 4.4m は狭いので、湿地幅から言うと案 3 の 10m で行うのが良い。

P37 のモニタリング項目について、現状の生態系が不明なので意見できない。

県の資料 P8 可動堰の開閉による水際位置の変化も考慮して計画すると良い。

P10 下流の用水取水のための落差工の落差が解消されていないのであれば、下流から改修を進めるべき。

<事務局>

用水の取水施設は利水者で設置したものであり、河川管理者での整備は難しく、河川管理者が出来る箇所の下流から進めている状況である。利水者へも協力を呼びかけながら進めていきたい。

<田原委員>

利水者の施設ということは分かるが、天王川のビジョンが見えてこないのか、何を対象としているのか、また農水とも連携を図ること。里川連環部会でも農水との連携が非常に重要となってくると思うので、ぜひ検討して頂きたい。

日野川の川幅などの基礎的な情報を教えてほしい。

<事務局>

場所によってまちまちであるが、日野川の川幅はおおよそ 200m 前後であり、円山川はその倍以上の川幅がある。

<福原委員長>

河床勾配はどれくらいあるのか。

<事務局>

日野川はおおよそ 1/2,000 程度であり、円山川は 1/9,000 程度である。

<萱場委員>

P25 のような河川の一部のポンチ絵だけでは低水路の状況が分からず、河道全体の評価ができない。全体の横断図上に表して頂きたい。

また、河床変動計算を実施しているが、堆積タイプが一様堆積型か河岸際凸型かどちらのタイプかを既往の知見等を使って定性的に行うと確実度が増す。

掘削面が粘土層など硬いと底生生物が住みにくいので、掘削形状だけではなく、掘削面の粒径や硬さについても配慮した方が良い。

全国的に湿地性の群落が無くなっているので掘削エリアに湿地性の群落の再生が期待できる計画にすると良い。

円山川の事例であったようなくし型の掘削によるワンドの形成を日野川でも行う考えはあるのか。水際の形状を多様化するとより生物多様性が高まるので良いと思う。

<松村委員>

これまでの河川水辺の国勢調査結果を取りまとめて、次回、資料として提出して頂きたい。それを念頭に置きながら議論をすることが大事。

ヒクイナはかつていたるところに存在していたが、今では、福井県で2箇所のみで記録されており、そのうちの1箇所が日野川である。全国的にも湿地が減少しており、その個体自体も減少している。また日野川はコウノトリのエサ場にもなる蛙の多様性が非常に高いところであるので、それを維持していくことも考える必要がある。

<吉岡委員>

堤防と掘削箇所の間はどのような管理を行っていくのか。

<事務局>

堤防については草刈を実施する。また、堤防と掘削箇所の間は現状で田畑などの耕作を行っている箇所がほとんどである。

<奥村委員>

魚類についてはどの種を想定しているか。塩分遡上はあるか。堆積傾向のある土質を予測しながらモニタリングを行うことが大切。

<事務局>

魚類については特定の種を対象として検討していない。塩分遡上についてはギリギリ感潮区間に入ると思われる。

<田原委員>

アユやボラはいるのか。

<事務局>

アユは生息している。ボラは九頭竜川との合流点では確認されている。

<田原委員>

コウノトリのエサ場となることを考えるのであれば、対象魚種の設定を検討すべき。

<松村委員>

掘削箇所と堤防との間にある水田の環境についてこの部会で考えることは出来るのか。生物多様性を高めるためには、水田の一角に常時水が溜まるような湿地を設けるようなことも重要になるので検討して頂きたい。

<田原委員>

今回の整備区間で、営農をしている箇所とそうでない箇所を示すことが重要なので資料に示してほしい。

<吉岡委員>

設計前に委員が整備区間を見ることは可能か。設計はいつから行うのか。

<事務局>

第2回の開催を1/19に円山川の視察を考えていたが、それを日野川に変更することは可能。設計は予算がついてから行う。

<萱場委員>

航空写真等で現場を立体的に見える資料をつけて頂きたい。また、九頭竜川の掘削工事で行っているモニタリング結果が無いのか。県管理の河川の多自然川づくりはどうやっているのか。その他の支川での取り組み状況などあれば、次回教えてほしい。

<事務局>

九頭竜川で掘削している中角地区は、川幅が狭く余裕がないので整備計画どおりの断面で掘削しており今回と同様の事例はない。

<萱場委員>

どこが陸域、水域、その中間になるか資料では分からないので整理して頂きたい。

<松村委員>

コウノトリはシンボルとして最終目標であり、そのプロセスの中でいろんな生き物がいるということが大事だと思う。

<福原委員長>

低水路と高水敷の接続部分の検討、湾曲箇所への考慮、河床の土質、蛙や魚などコウノトリのエサとなる生物の維持、河道と用水の連続性の検討、現場を見てイメージを膨らますなどを次回の検討項目ということで、事務局で整理して頂きたい。

(3) 今後の予定について

第2回検討会を平成28年1月19日に開催予定。豊岡（円山川）の視察を考えていたが、日野川も見たいとの意見もあったので、内容については、部会長とも相談して委員へ連絡する。また、第3回検討会を3月に開催したいと考えている。

10 その他

特になし

11 閉会

あいさつ（福井県）

本日の部会で今後検討すべき課題等ご意見いただいたものと思っている。まずは、過去からの地形変状や土地利用の状況などの基礎データを整理して、検討のベースにしたいと思っている。コウノトリをシンボルとし、生物と河川事業が共生した地域発展を目指して事業を進めていきたいので、引き続きアドバイス、ご指導いただければと思う。